

町長あいさつ

町取組要旨

先 日、一昨年の災害を感じさせるような豪雨となった。町では高齢者等避難を発令するとともに避難所を開設。道路の冠水や土砂崩れが生じたため、迅速に対応するため900万円ほどの専決処分を行った。熊本地震も発生。厳しい暑さのなかでの避難、復旧作業となっている。募金活動をはじめ、やれることはやっていきたい。

昨年10月に国勢調査が行われたが、5年間で663人の減少となった。懸案だった役場非常用電源を隣接する駐車場に設置。大災害時の対策本部として72時間の電源を確保できることになる。そのほか、駐車場の拡大、第二庁舎の稼働、小中学校の給食費無償化、保育料・給食費の無償化、事業者支援などを行った。

今年度、グリーンバレーの新たな指定管理者として「ラ

イズ・大平ホテル共同事業体」を、マルコの蔵は「金山の未来」をそれぞれ選定。より活発な運営となることを期待している。

一般会計は対前年度7.3%増の54億3千万円となった。主なものとしては、温泉施設ホットハウスカムの改修。9月から建設工事を開始し、来年の秋に開業する予定。中央公民館跡地への地域振興施設整備も計画。給食費無償化も継続する。

また、より選ばれる町になっていくために、国の補助を活用しながらシティープロモーション事業を行う。

有害鳥獣対策として猟銃購入支援、電気柵設置、不要果樹の伐採の補助を実施するほか、税証明をコンビニ交付できるようにシステム整備も行う。本日の委員会でぜひ、町が元気になるよう皆さんから知恵とアイデアをいただきたい。



①②③参加する委員一人ひとりがそれぞれの立場や経験・視点から意見を出し合い、約2時間にわたり議論を行いました。



公募等によって選出された
8名の委員のみなさん

かねやま元気なまちづくり委員会

8月4日、役場町民ホールで「かねやま元気なまちづくり委員会」が開催されました。この委員会は、各分野で活躍されてきた経験豊富な皆さんから「町が元気になるためのアイデア」や「町の強み」について自由にご意見をいただき、今後の町づくりへのヒントとすることを目的としています。

委員の皆さんの思いと提案

あべ ゆりこ 阿部 由里子さん

「人と会うことで元気になる」ことを大切にしている。人数が少なくても、未来に向かう話をすれば前向きになれる。

- ①会議の冒頭に挨拶タイムを設けて前向きな会話を促す仕組みづくりを進めてはどうか？
- ②有害鳥獣対策の不要果樹撤去に対する補助制度の対象範囲を見直し、猟友会の負担軽減と住民の安全確保を図ってはどうか？
- ③シティープロモーションの動画に、日頃目立たない生産者なども含め、地域の魅力を発信してはどうか？

にしだ さとし 西田 哲さん

交流が減り、子どもの体験学習の機会も失われた。私自身、子どもの頃に夢中になった経験が今でも生きており、幼少期の体験は大切だと実感している。自分で作った農産物を食べる体験もいい。また、地区の役員も長く務めると、色んな案が出てくる。

若い世代が意欲的に参加できる地域づくりの政策を推進し、役場と住民が一体となって活性化に向けた起爆剤を作ってはどうか？

おしきり たみお 押切 民夫さん

若い頃はイベントを仕掛けて町を元気にしようと考えていた。現在も「人と会うこと」こそが元気になる基本であり、人とのつながりの中で来訪者を増やすことが大切だと実感している。「森の案内人」のように町外の人を招いて活動する団体もあり、同じ趣味の仲間が増えていけば心強いと思う。

町内の空き店舗を活用して趣味を共有し合える場（展示や音楽など）を増やし、人と人とのつながりや豊かな日常を生み出すことで、「まちづくりは人づくり」を実践し、住民一人ひとりが輝く元気なまちづくりを進めてはどうか？

あべ かずよ 阿部 一代さん

町に来てくれた町外者に満足して帰ってほしい。

- ①町中心部の様々な資源を再利用し、経済効果をあげてはどうか？
- ②町民ホールをギャラリーにしてはどうか？町が所有している絵画を有料で見せようなど。
- ③イザベラ・バード関連イベントを検討してみてもはどうか？

ながくら 長倉 カツミさん

夢の話をしたい。課題はあるがきっと金山にお客さんは来ると思う。

「道の駅」を新設し、池の鯉、町の木、金山ならではの産直グルメ、足湯などを備えることで、多くの観光客が訪れる魅力的な拠点を作ってはどうか？金山に「道の駅」ができれば、山形に入って最初のガソリンスタンドと謳えるので流行るのでは。

やぐち かずとし 矢口 一寿さん

区長をやめてから「自分に何ができるか」を考え、老人クラブを再度立ち上げて現在は会員が26名になった。いつでも、誰でも、好きなときに集まれる「公民館のサロン化」を目指し、「出かける」「会話をする」活動を進めている。まずは自分が元気、他の人も巻き込んで元気にしようという思いが、「柳原元気の素づくり」を始めたきっかけであり、軽トラ市の実現にもつながった。産直の「神室ざる市」も高齢化が進む中、何とか盛り上げたいと、この春は自分を含めて新人3名が加入し、街市で地区外デビューを果たした。また、柳原番衆が賞をいただいた。インバウンドの商品として活用されれば、やりがいがある。

自分が元気なこと。そして他の人も巻き込んで元気にしたい。

まつだ じゅんいち 松田 順一さん

地区の老人クラブでは、3ヶ月分の決定事項を紙で配布し、「分からないことは確認する」という自立に向けた取組みを始めた。自立した高齢者が増え、町が元気になることを期待している。一方、昨年の米の価格高騰は流通経費が主な原因。パンや麺が手軽に食べられるのに対し、米は手間がかかることも若い人の「米離れ」につながっている。

町で、チンしてすぐ食べられる「パックご飯」を商品化してはどうか。コストも削減できるし、後継者も主食を確保できる。

おの きゅうえい 小野 久栄さん

人が集まれば、きっと町の活性化につながると思う。

- ①杉が有名。角材の上を走る競技など開催してはどうか？
- ②グリーンバレー神室にジップラインを設置してはどうか？子どもから大人まで人気があり、春から秋まで使える。
- ③町営バスの運賃について、高齢者を無料にしてはどうか？利用者も増え、やくし苑の健康づくり事業に来てくれる人も多くなる。
- ④移住定住の魅力促進策として、米5年間無料などどうか？